

第53回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 実績報告

公演日		公演名	会場	概要	入場者数(人)
9月25日	(日)	ふるさとは水清く…	熊本県立劇場 コンサートホール	第1部邦楽、第2部歌曲と合唱、第3部管弦楽の構成で、「水」をテーマに演奏。最後の光永浩一郎作曲「水のカウンタータ～調和の靈感～」(初演)は、邦楽器、管弦楽、合唱に電波楽器のオンド・マルトノを加えた壮大な曲で、観客を魅了した。また、崇城大学芸術学部監修の、テーマに沿ったオブジェと映像による舞台装置も、ステージに華を添えた。	1,166
9月30日	(金)	邦楽～心を結ぶ絃と絃in県庁	熊本県庁新館ロビー	今年の全国くまもと邦楽コンクールで最優秀賞を受賞した佐藤亜美が出演。二十五絃箏で「津軽」や「琵琶行」などを演奏し、熊本では聴く機会があまりない、二十五絃箏の迫力ある響きを聴かせた。	150
		邦楽～心を結ぶ絃と絃in県立劇場	熊本県立劇場和室	今年の全国くまもと邦楽コンクールで最優秀賞を受賞した佐藤亜美によるコンサート。「みだれ」や「ロンドンの夜の雨」などの古典曲から「津軽」「琵琶行」の現代曲を十三絃と二十五絃箏で演奏した。十三絃と二十五絃箏との響きの違いを楽しむことのできるコンサートとなった。	38
10月1日	(土)	ミュージアムコンサート 「印象派とフランス音楽の宴」	熊本県立美術館	熊本出身・在住の演奏家3人による美術館ロビーでのコンサート。美術館で開催されている「印象派の誕生」に合わせて、ドビュッシーやシャブリエなど印象派時代の演奏家の曲を中心に、ヴァイオリン・フルート・ピアノの編成で演奏した。	300
10月8日	(土)	みずあかりまちなかコンサート	NTT前(桜町)	熊本暮らし人祭り「みずあかり」に協賛し、みずあかりまちなかコンサートのNTT前と城彩苑の2つのステージの司会・進行、出演者の対応を県立劇場が受け持った。NTT前は、リトルバイオレッツ、少女舞踊団ザ・わらべ、子ども舞踊団こわらべなど、かわいらしい子どもたちのステージを行い、城彩苑は、邦楽の出演者、福島竹峰&藤川いずみ、後藤幸浩(薩摩琵琶)、田島お琴尺八研究所が竹あかりに華を添えた。	2,800
10月9日	(日)		城彩苑		
10月4日～8日		音楽アウトリーチ 御船町	御船町内小学校 御船町カルチャーセンター	平成21・22年度登録アーティストの木野聖子によるアウトリーチ。小太鼓やマリンバの説明や奏法を分かりやすく解説し、学校にある木琴などの楽器を使用して演奏するなど、子どもたちに馴染みのあるもので、打楽器の魅力伝えるアウトリーチを実施した。	参加者239 入場者180
10月17日～21日		音楽アウトリーチ 植木町	植木町内小学校 植木町文化ホール	音楽の森(春日保人、丹沢広樹、春日万里子)によるアウトリーチ。「待ちぼうけ」や「ユーモレスク」など子どもたちに馴染みのある曲を演奏したり、ヴァイオリンの音での動物あてクイズなど、音楽で色々な表現ができることを子どもたちに感じてもらうアウトリーチを実施した。	参加者206 入場者345

(収入の部)

科目	第2回補正予算後	収入額	予算に対する増減	項目
事業収入	2,200,000	2,361,245	161,245	チケット代(PGでの販売手数料を引いた額)
制作受託収入	3,600,000	5,000,000	1,400,000	芸文祭企画委員会
助成金(文化庁)	7,704,000	6,931,687	-772,313	(助成見込額)
助成金(熊本放送文化振興財団)		300,000	300,000	
市町村負担金	600,000	600,000	0	御船町200,000、植木町400,000
事業受託収入	3,000,000	3,000,000	0	
合計	17,104,000	18,192,932	1,088,932	

第53回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 決算書

(支出の部)

(単位:円)

科目	項目	予算	決算
臨時雇賃金	受付/搬入出アルバイト	OP&ホワイト	アルバイト(楽器搬入)
	その他アルバイト		アルバイト(フロント)
	小計		
会議費	打合せ会食	@3*10人*3回	七彩
	小計		
諸謝金	講師謝金	演奏料	TVCMナレーター(井芹)
	アーティスト謝金	ゲスト演奏料	司会謝金
	コーディネーター/アドバイザー謝金	司会謝金	演奏謝金(個人)
	その他謝金	美術、照明、等プラン	演奏謝金(熊響)
			砂泊宇希
			野田千晶
			合唱団体謝金
			熊本管演奏者協会
			田島お琴尺八研究所
			福岡元三郎
			鈿光道
			國本淑恵
			川崎絵都夫(練習指導)
			佐藤亜美
			美術館コンサート(島羽瀬・那須・早川)
			アウトリーチ(御船町/木野・上田編曲)
		アウトリーチ(植木町/春日(保)、丹次、春日(万))	
		アウトリーチ(山田小/広瀬・柴田)	
	小計		
旅費交通費	講師等旅費	ゲスト出演者旅費	福田先生(制作発表)
	アーティスト旅費	指揮者旅費	演奏家(長尾、長尾、流川、佐々木、園本)
	地元出演者等旅費	地元出演者旅費	川崎絵都夫
	職員旅費		アウトリーチ
	タクシー代		県庁ロビーコンサート他
			県内交通費(4-9月)
	小計		
出演者等食糧費	ケータリング		ミネラルウォーター/ケータリング
			解散式用ドリンク
	小計		出演者お弁当
消耗品費	事務用品		合唱用楽譜台紙
	コピー代		
	舞台制作消耗品費		
	小計		
印刷製本費	印刷物デザイン料		ポスターチラシ印刷費
	ポスター		プログラム印刷費
	チラシ		合唱譜コピー
	プログラム		邦楽チラシ・美術館プログラム
	小計		
保険料			傷害保険(植木町)
	小計		傷害保険(御船町)
通信運搬費	道具・運搬費		本部運搬(ユース・上野本部・佐藤亜美)
	楽器運搬費		宅配便
	宅配便代		
	小計		
広告費	テレビスポット	@420*1社	フラッシュ
	新聞広告		大型画面
	情報案内板		熊本文化
	大型画面DVD		熊日
	HPフラッシュ映像		TVCM(4社)
		その他	
	小計		
手数料	チケット登録手数料		チケット販売手数料(出演団体)
	小計		
委託費	舞台委託		制作発表看板
	照明委託		情報案内板製作
	音響委託		崇城大学舞台美術製作
	記録委託		舞台監督
	振付・舞台監督委託		ピアノ調律
	運営業務委託	進行、衣装、小道具	舞台進行・構成統括
	託児委託		照明業務委託
	看板作成委託		ポスターチラシデザイン委託
	クリーニング		TVCM制作費
			託児
			プログラムデザイン
			福田隆
			ジャパンアーツ(原田節)
			浜川潮
			佐々木典子
			光永浩一郎作曲
			水のカウンタータ写譜
			楽器運搬(上野屋/森楽器)
			DVD製作
			記録写真(ふるさとほー/民家/美術館/みずあかり)
		竹あかりオブジェ製作	
		みずあかりまちなかコンサートステーン	
		ピアノ調律(美術館・山田小)	
	小計		
賃借料	設備使用料		会場使用料(制作発表)
	附属設備使用料		附属設備使用料(制作発表)
	ピアノ調律料		会場使用料(ふるさと)
	照明・音響等機材		附属設備使用料(ふるさと)
	その他	音楽費	情報案内板使用料
			箱馬賃借
			音楽製作使用料(ふるさと/美術館/演奏/和室)
			会場使用料(和室)
			チェンバロ借用料(植木町)
	小計		
雑費			
	小計		
合計			

第 53 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ 記録写真



9月25日(日) 芸術文化祭オープニングステージ「ふるさとは水清く…」



9月30日(金) 邦楽～心を結ぶ絃と絃 in 県庁



9月30日(金) 邦楽～心を結ぶ絃と絃 in 県立劇場



10月1日(土) ミュージアムコンサート「印象派とフランス音楽の宴」



10月8~9日みずあかりまちなかコンサート



10月4~8日 音楽アウトリーチ(御船町)



10月17~21日 音楽アウトリーチ(植木町)

うれしいことも、
かなしいことも、
元気なときも、
苦しいときも、
愛しいきもちも、
人はすべて
音楽にしてきた。

こ い し や ふ る さ と



第53回熊本県芸術文化祭オープニングステージ

ふるさと 水清く...

～ 洋楽・邦楽と美術の融合 ～

2011年9月25日 日 開場 14:00 開演 15:00

熊本県立劇場 コンサートホール

制作統括/大江捷也

指揮/福田隆

出演/佐々木典子(ソプラノ)、熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会、
熊本県邦楽協会、芸文祭オーケストラ、芸文祭合唱団 ほか



平成23年度 優れた劇場・音楽堂からの
創造発信事業

「ふるさと水清く・・・」公演に寄せて



熊本県知事
蒲島 郁夫

熊本県芸術文化祭が、今年も多くの県民の皆様に参加いただいて開催できることを大変うれしく思います。この芸術文化祭の幕開けを飾るオープニングステージでは、これまで毎年ジャンルを変えて舞台制作に取り組んで参りました。

今回からは、新しい取組として舞台芸術と造形芸術の融合をめざし、文化芸術の未来を担う若い世代の優秀な人材を活用しながら、多彩な文化ジャンルの交流を通じた舞台を創造してまいります。

今回のステージでは、熊本県出身の国立音楽大学教授の福田隆氏を指揮者に、同じく県出身のソプラノ歌手佐々木典子氏をゲストに迎え、県内の邦楽、洋楽、合唱団体が連携・協力して、熊本の豊かな水、さまざまな生命をつなぐ「水」をテーマにすばらしい音楽をお送りします。さらに造形芸術として、崇城大学芸術学部の協力を得て、演奏音楽をイメージする舞台美術の制作といった新たな取組も行います。

熊本におけるジャンルを超えた音楽のすばらしさを実感し、感動いただけるものと思います。

最後に、複数のジャンルのコラボレーションという、新しい取組の成功に向けて、ご尽力とご協力を賜りました多くの関係者の皆様方に対し心から感謝を申し上げます。

ごあいさつ



熊本県文化協会会長
小堀 富夫

「芸術を高め、文化を広める」をコンセプトに第53回の「熊本県芸術文化祭」が、今年も県民の多くの参加を得て、県内各地区で開催されますことを心より嬉しく思います。

平成17年度からオープニングステージが6年間にわたり、6つのジャンルで県内の関係団体が協力して、芸術性の高い舞台芸術作品を制作し公演を行ってきました。

第7回目となる今年から4年間は、「舞台芸術と造形芸術の融合」をめざして、新しいステージが始まります。

今年は、「ふるさと水清く・・・」～洋楽・邦楽と美術の融合～が上演されます。

第1部(邦楽)では、熊本箏演奏者協会・熊本県尺八演奏者協会・熊本県邦楽協会の出演、第2部(歌曲・合唱)は、オーケストラ・合唱・少年少女合唱団による選抜メンバーに佐々木典子さん、そして第3部(管弦楽と邦楽・洋楽のコラボレーション)に管弦楽・邦楽・合唱の選抜メンバーが出演し、光永浩一郎作曲の「水のカンタータ～調和の靈感～」などが披露されます。特に原田節さんの「オンド・マルトノ」は、日本では数少ない楽器と聞いています。

多くの方々の来場をお願いすると共に、県下各地の催事にも足を運んでいただくことを期待しています。

劇場へ、そして、劇場から日常へ



熊本県芸術文化祭
企画委員長 制作統括
大江 捷也

熊本県民文化祭から熊本県芸術文化祭オープニング事業に姿を変えて7年目を迎えました。熊本の伝承芸能の日本舞踊化、熊本が生み育てた音楽のオーケストラと合唱、熊本を題材にしたオペラや能楽。パレエに演劇とジャンルごとに熊本の持てる力の総力を挙げて取り組んだ創作は、全国的に高い評価をいただけてきました。

今年からは、熊本の風土と歴史を軸に、水・火・森・山をテーマに異ジャンルのコラボレーションを組み、芸術的に結実度の高い作品を創造して劇場にお運びくださった方々と感動を共有すると同時に、劇場から街中に進出することで、芸術を日常の世界に持ち込む実験を始めることにしました。

新4年計画の最初の年にあたり、邦楽と洋楽と美術のコラボレーションで芸術表現を行います。それに加えて熊本を代表する秋の行事の「みずあかり」が劇場を飾ってくれます。それに協調して、「みずあかり」の会場では音楽家たちが音楽で飾ってくれます。

単一のジャンルがまとまって力を合わせることで大変なことなのに、異ジャンルの協調による創作です。熊本の歴史が支えてくれるからこそ可能な事業です。熊本の未来のために御支援御鞭撻いただければ幸いです。

ごあいさつ



熊本県立劇場 館長
葉山 完治

大地の底からこんこんと湧き出る水。清らかで豊かな水は、熊本の誇りです。

今年の熊本県芸術文化祭のオープニングステージは、その水がテーマです。

メインは、この日のために光永浩一郎さんが作曲した「水のカンタータ “調和の靈感”」の初演です。

元ウィーン国立歌劇場専属ソリストの佐々木典子さんが出演するのをはじめ、芸文祭合唱団、芸文祭オーケストラ、更には、熊本の箏ならびに尺八演奏者協会、熊本県邦楽協会の皆様によって演奏されます。

電子鍵盤楽器のオンド・マルトノが熊本で初めて演奏されるほか、かつてない規模で、洋楽と邦楽のコラボレーションが展開されます。

今年は演奏曲をイメージして、舞台制作に崇城大学芸術学部と連携するなど「舞台芸術」と「造形芸術」の融合を図るとともに、熊本城周辺で実施される「みずあかり」事業に協賛して劇場内に竹灯りを設置します。更に、静岡県から演奏家2人を招待し地域間文化交流の芽を育みます。話題は豊富です。

「ふるさとは水清く・・・」。このステージでは、言うまでもなくふるさとの水を讃えることを基調とします。

そのふるさとへの思いが、今年程重みを持って語られたことはありません。2011年の出来事として、思いは東日本大震災の被災地にも連なります。

プログラム

司会：原武 博之

第一部 ～邦楽

春の海 宮城道雄 作曲 宮田耕八朗 編曲
演奏：熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会

雨の水前寺にて 宮田耕八朗 作曲
演奏：熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会

「大河へ」より 川崎絵都夫 作曲
指揮：福田 隆
演奏：熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会、熊本県邦楽協会

第二部 ～歌曲・合唱

九十九里浜 北見志保子 作詞 平井康三郎 作曲
鱒 シューバルト 作詞 シューバルト 作曲
オペラ「ルサルカ」より『月に寄せる歌』 クヴァピル 作詞 ドヴォルザーク 作曲
演奏：佐々木典子(ソプラノ)、浜川 潮(ピアノ)

合唱組曲「水のいのち」より『雨』『海よ』 高野喜久雄 作詞 高田三郎 作曲
指揮：福田 隆
演奏：芸文祭合唱団、砂泊宇希(ピアノ)

第三部 ～管弦楽と合唱・洋楽・邦楽による合同演奏

組曲「水上の音楽」(ハーティ版) ヘンデル 作曲
指揮：福田 隆
演奏：芸文祭オーケストラ

水のカンタータ“調和の靈感”～声楽、和楽器群、オンド・マルトノ、ピアノと管弦楽のための合奏協奏曲～
光永浩一郎 作曲 《初演》
指揮：福田 隆
演奏：佐々木典子(ソプラノ)、芸文祭合唱団、芸文祭オーケストラ、原田 節(オンド・マルトノ)
浜川 潮(ピアノ)、熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会、熊本県邦楽協会

曲目解説

第一部 邦楽

■春の海 宮城道雄 作曲 宮田耕八朗 編曲

箏と尺八の合奏による純器楽曲で、昭和5年の勅題「海辺の巖」にちなんで、前年の12月に作曲された。かつて、春の瀬戸内海を舟で通ったときの印象にヒントを得て作ったという。

曲の構成は、三部形式をとり、第一部分はゆるやかな波の感じで始まり、舟場に当たる小波の音、かもめの鳴き声やその飛び交うさまなどが織り込まれている。第二部分はテンポを速め、勇ましい櫂拍子の漁船の行き交うさまを描写したと思われる部分。第三部分は第一部分の反復で再びのどかな春の気分に帰る。標題音楽としてすぐれた曲であるばかりでなく、急一緩一急といった反復、対称が試みられた傑作である。

原曲の尺八の部分を、昭和7年フランスのヴァイオリン奏者ルネ・シュメー女史がヴァイオリンに編曲して、作曲者と合奏してから世界的に有名になった。中学校の共通鑑賞教材にも取り入れられたことがあり、演奏会でしばしば演奏曲目となっている。宮城道雄の第一級の代表作。

(田島涼子)

■雨の水前寺にて 宮田耕八朗 作曲

熊本市にある水前寺公園の池は、阿蘇山の雪解け水が伏流となって湧き出した大きな泉。夏には凍るように冷たく感じる池の水も寒い冬の朝は、かえって暖かく池の全面に水煙が立ちのぼる。ボツリ、ボツリと降りはじめた雨が、やがて激しくなるとあたりは水煙と雨につつまれ、池の向こうの築山が、ぼーっとかすんで見える。薬屋根の茶室から望む庭園は、しっとりとして一幅の墨絵を思わせる美しさである。やがて雨は止み、雲間から射す陽に葉末の雫がキラリと光る。鯉がひと跳ねすると、葉末に溜りかけた露がコロコロと転げ落ち、池の面には湧き水の波紋と雫の波紋とが折り重なる。

(田島涼子)

■「大河へ」より 川崎絵都夫 作曲

邦楽器の大編成による合奏曲として2010年に作曲。日本音楽集団第200回定期演奏会にて初演された。

曲は単一章からなり、大河へ至る水の流れに様々な想いを重ねる形で作曲した。次のような部分から出来ている。

葉平く（大河の元となる山奥の一滴の水の滴り）→雪解け→木もれ日（透明な水が木もれ日を浴びて流れていく。ヤマメなどの美しい魚の姿も…）→夜の森（暗い森を秘やかに流れ行く川）→急流→夜の森2→祭（一夜明けると河川敷では夏祭りが行われ、盆踊りや花火も）→大地の歌（恵みの水となって大地を潤し豊かな命を育む水）→大地の歌2→大地の歌3→大河へ

様々な和楽器の姿でる壮大な雰囲気をお楽しみください。

（川崎絵都夫）

第二部 歌曲・合唱

■九十九里浜 北見志保子 作詞 平井康三郎 作曲

平井康三郎は、1929年東京音楽学校（現・東京藝術大学）のヴァイオリン科に入学し、また、作曲と、指揮法を学んだ。戦前、戦後と、あらゆる分野にわたる沢山の作品を、発表している。

この九十九里浜は、“平城山、九十九里浜、甲斐の峡”と1935年に作曲された、三部作の一つで、ごく初期のものである。この三部作は、短歌を数首ひとまとめにして歌詞にした短歌連曲で、いずれも同郷の歌人、北見志保子の短歌が用いられている。

（佐々木典子）

■鱒 シューバルト 作詞 シューバルト 作曲

この「鱒」は、シューバルト作曲の中でも「野ばら」や、「菩提樹」のように、大変ポピュラーで、親しまれている作品の一つである。シューバルトの友人の一人である、シューバルトの詩に作曲してある。透き通る美しい小川に、いきいきと泳ぎまわる、鱒の様子が描かれている。シューバルトの「鱒」は、3番までの歌詞であるが、このシューバルトの原詩には、第4節までである。第4節は、“自由に気まぐれに、なんの恐怖もなく遊んだ水のなかを泳ぎまわる鱒を、若い娘たちにたとえ、用心しないと、釣り針をもって誘惑する男たちにつり上げられますよ、後悔することになりますよ・・・”と、教訓めいた内容になっている。

（佐々木典子）

■オペラ「ルサルカ」より『月に寄せる歌』 クヴァピル 作詞 ドヴォルザーク 作曲

ドヴォルザークは、スメタナと同様に、チェコを代表する作曲家の一人である。

当時、オーストリア支配下にあったチェコ人には民族意識がたかまり、歌劇場は、民族の文化の象徴でもあった。プラハの国民劇場完成までの仮劇場で、ドヴォルザークは、同劇場オーケストラの首席ヴィオラ奏者を務め、スメタナの指揮で、スメタナのいくつかのオペラの初演にも立ち会っている。

このルサルカの台本は、詩人で劇作家だった、ヤロスラフ・クヴァピルの手によるもので、彼は、休暇で訪れていたデンマークで、アンデルセンの童話、特に“人魚姫”を読み返し、また、チェコ民話詩の数々から“ルサルカ”を生み出した。水の精のルサルカが、人間の王子に恋をして、自分の国である湖をすてその思いをとげようとする。このアリアは、オペラ“ルサルカ”の中で、主人公のルサルカが、湖にいつも遊びにくる王子に恋をして、この思いを白銀の月に王子に伝えてと歌われる歌である。音楽から、水の動きや湖面を照らす美しい月などの情景が、よく表わされている。

（佐々木典子）

■合唱組曲「水のいのち」より『雨』『海よ』 高野喜久雄 作詞 高田三郎 作曲

降りしきる「雨」は、地上の全てのものを甦らせる。そして川となり、海へ下り、再びそれに昇り、雨となる水の循環。その「水のいのち」は「人のいのち」と重なる。

あの真っ黒い大津波も、ありとある芥、全てを受け入れて、常に新しく甦る海の不可思議。

今回演奏する「水のいのち」の中の「雨」も「海よ」も、3.11以後は特別な思いを振り払うことはできない。シンプルな高田作品だが、作曲家自身、深い思いを込めた作品でもある。今回は更に深い思いの演奏となることだろう。

（岩津整明）

第三部 管弦楽と合唱・洋楽・邦楽による合同演奏

■組曲「水上の音楽」（ハーティ版） ヘンデル作曲

ヘンデルは、はじめドイツのハノーヴァー選挙侯の宮廷楽長をつとめていたが、その間二度にわたってロンドンを訪れた。ロンドンで絶大な歓迎を受けたヘンデルは、帰国命令も聞かず滞英し続けたためハノーヴァー侯の怒りを買ってしまった。

ところがあろうことかアン英国女王の急逝により、次の英国王にハノーヴァー選挙侯がジョージ一世となって赴任したのである。立場を失ったヘンデルは一計を案じ、国王の舟遊びの際、「水上の音楽」を作曲してオーケストラを舟に乗せ、国王の舟の近くで演奏した。国王は大いに喜び、繰り返し演奏するよう命じ、更に晩餐の席でも演奏させるほどであったという。もちろん国王との和解は成立した。

しかし、その後の研究によると、国王との和解は「水上の音楽」の作曲以前にすでに成立していたとされる。

ハミルトン・ハーティ卿によって近代オーケストラ用に編曲された組曲は、次の6曲からなる。(1)アレグロ (2)アリア (3)プレー (4)ホーンパイプ (5)アンダンテ・エスプレッシヴォ (6)アレグロ・テチーソ

（山崎崇伸）

■水のカンタータ「調和の靈感」～声楽、和楽器群、オンド・マルトノ、ピアノと管弦楽のための合奏協奏曲～ 光永浩一郎作曲

「調和の靈感」の作者ヴィヴァルディと同様「水のカンタータ」は、邦楽器（尺八、十三箏と十七箏、三絃、琵琶）に、ソプラノ独唱、混声合唱団、ピアノ、管弦楽、及び電子楽器オンド・マルトノ等、きわめて多種類の楽器が用いられる。「水の讃歌」が終曲におかれ、この主題をもとにした前奏曲とフーガが全体を構成している。

前奏曲は邦楽器が優位に立ち、古典曲「六段」「鹿の遠音」「さくら」が引用されクライマックスへ導く。フーガは、合唱が挿入され「ディエス・イレ」に始まる鎮魂歌から開始される。創造主への感謝が沸き起こったとき、光のきらめきの中で再び氷が現れ、新たな未来を祝福する。「現世と来世のきずな」が、一貫してこの作品を支えている。

（光永浩一郎）

演奏者紹介

■福田 隆 (指揮)



熊本市生まれ。東京藝術大学打楽器専攻卒業。同大学院修了。1973年以降パーカッショングループ72のメンバーとして打楽器音楽の普及に努め、新作の委嘱、初演等を行う。1976年以降、NHK交響楽団をはじめとする在京のオーケストラ、九州交響楽団、現代音楽祭等で打楽器奏者として活動する。1982年帰国後、熊本ユースシンフォニーオーケストラの指揮者に就任。以後、九州、山口の学生オーケストラ、市民オーケストラ、吹奏楽、邦楽アンサンブル等のトレーナー、指揮者を務める。1985年から現在まで毎年熊本バレエ劇場「くるみ割り人形」を指揮。1986年第21回熊本県文化懇話会新人賞受賞。同年9月より国際ロータリー財団奨学生としてベルリン・カラヤンアカデミー留学。1993年熊本市ひとつくり基金を得てザルツブルク・モーツァルテウム・オルフ研究所留学。2007年より国立音楽大学打楽器アンサンブルの音楽監督を務める。現在、国立音楽大学教授、玉名女子高等学校特別講師。

■佐々木典子 (ソプラノ)



武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルクのモーツァルテウム芸術大学オペラ科を首席で修了。ウィーン国立歌劇場オペラ研修所に所属、その後同歌劇場にソリストとして本契約。ウィーン国立歌劇場日本公演、ザルツブルク音楽祭「モーゼとアロン」、「エレクトラ」、「影なき女」等に出演。二期会「魔笛」パミーナをはじめ、「こうもり」ロザリンデ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」エーファ、「ばらの騎士」元帥夫人、二期会・新国立劇場共催「鳴神」雲の絶間姫、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラなど、今や主役に不可欠な存在としてその地位を確立。「ダナエの愛」(日本初演・演奏会形式)タイトルロール、東京二期会「ダフネ」(日本初演)、「カプリッチオ」タイトルロールで出演。2012年3月、びわこホール、神奈川県民ホール、「タンホイザー」エリザベート役で出演予定。卓抜した音楽性と表現力は、世界的巨匠をはじめとする共演者からも常に尊敬の対象とされている。東京藝術大学准教授。1990年熊本市女性賞受賞。2000年第2回ホテルオークラ音楽賞受賞。二期会会員。

～静岡県からの招待演奏家～

■江成淳美 (ヴァイオリン)



国立音楽大学器楽科ヴァイオリン専攻卒業。故 宗倫安、石橋洋子の各氏に師事。日本弦楽指導者協会会員。

1977年静岡フィルハーモニー管弦楽団創立からコンサートミストレスとして、また、室内楽等でも、静岡県内外での演奏活動を行なっている。これまでに中国、アメリカ、フランス、オーストリア、イギリスでの海外公演を行なってきた。最近の静岡フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会は、昨年のリムスキー = コルサコフ「シェエラザード」、今年はマーラー「復活」にそれぞれ指揮者の三河正典氏、黒岩英臣氏を招き好評を博した。静岡市出身。

■長尾早苗 (箏)



東京藝術大学音楽学部邦楽科卒。NHK邦楽技能者育成会修了。

宮城喜代子、宮城数江、小橋幹子、上木康江、矢崎明子の各氏に師事。1978年ヨーロッパ13ヶ所で公演。1979～1980年アメリカに滞在、邦楽の普及に努める。1992年より現在に至るまでに5回のリサイタルを開催。1992年中国河南省政府招待により演奏。1993年邦楽演奏グループ「The 織音」を結成し、年に数回のサロンコンサートを開催。1999年フランスとベルギー、2004年にはアメリカにて公演。邦楽のみならず洋楽奏者との共演も多く、現代曲、古典等幅広く活動中。現在、生田流箏曲宮城会大師範。日本三曲協会会員、邦楽研究会 - 織音 - 主宰。

■原田 節 (オンド・マルトノ)

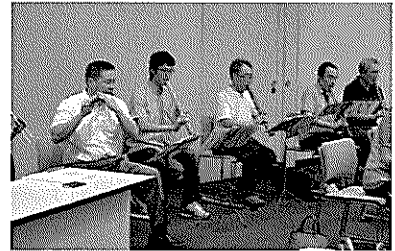
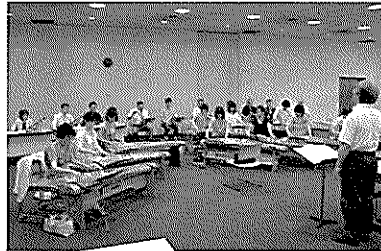


学生時代よりロック・バンドのマルチキーボードプレイヤー、またジャズ・ピアニストとしてのプロ活動をスタートさせたが、強烈な自己表現能力に優れたオンド・マルトノと出会い、慶應義塾大学経済学部を卒業後渡仏、パリ国立高等音楽院(コンセルヴァトワール)オンド・マルトノ科を首席で卒業。ピアノを栗原一身、遠山慶子の両氏、オンド・マルトノを故ジャンヌ・ロリオ女史に師事。オンド・マルトノを独奏楽器として扱う日本人初めてのソリストとしての演奏活動に留まらず、2001年よりはアジア初となる講座の開設、2002年よりは、オンド・マルトノ6台による《ハラダ タカシ・オンド・マルトノ六重奏団》を自ら主宰、楽器としての語彙の開発、レパートリーの拡充、後進の育成にも積極的に力を注いでいる。

現代音楽界での先進的な創作とともに、映画やテレビ、アニメやプレステ2に至るボーダーレスで一つの定義には取まりきれない活動は、第一人者の演奏家という評価のみならず、独自の哲学に裏打ちされた多様多彩な作品群の豊かさにより、作曲家としての地位もすでに確固たるものになっている。出光音楽賞、横浜文化奨励賞、ミュージック・ペンクラブ賞など受賞も多数。

■邦 楽

□箏	坂田知嘉子	二宮 和代	馬淵 弘子	ケアンス曙洞	□三味線
有田 順子	坂本悠里江	二宮 晶代	宮園 滯	庄司 貢	緒方 修
飯尾 奈美	澤田 法子	濱坂 妙	松上とおる	田島 永山	杵屋六花登
生田真由美	嶋田 明美	平井留美子	森山 さち	劔 光道	杵屋五司郎
伊藤 静子	下田れい子	福田 公子	柳田 邦子	西島 司山	下岸 希望
井上 栄子	志水 雅子	古川 郁代	山下 由紀	林田 沼山	□打楽器
井上 洋子	杉山 静香	外村 恭子	山村 千映	平田 佳山	木野 聖子
上田 真理	園田 敦子	正木 啓子	鎗水きよみ	古川 一成	杉田 博美
上野 悦子	ソフィ・ケアンス	松岡久美子	吉川 廣子	山内 泰洞	末松 郁子
上野 誓子	田島 涼子	松岡富美子	吉田 佳世	□笛	□箏
大橋 潤子	田中 鈴子	松川 美樹	渡辺 和子	藤山 雅弘	園本 淑恵
大原 向子	千田 文子	松下あつ子	□尺八	□琵琶	
岡田 澄子	寺崎 温子	松下 知代	稲岡 周山	後藤 幸浩	
甲斐夕香子	遠山 豊子	松野 孝子	河津 暁山	水島 結子	
川上 有紗	長尾 早苗				
門松 惇子	中野しのぶ				
兼坂 一子	中村 思乃				
上迫田日呂子	中村 直美				
後藤 誓子	那須 京子				
黒木 幸穂	鍋島 京子				
坂口 絵里	西野 邦恵				



邦楽は、熊本箏演奏者協会、熊本尺八演奏者協会、熊本県邦楽協会等により編成されています。

■芸文祭オーケストラ

□コンサートミストレス	追田 美和	松本 典子	紫藤 佑弥	□トランペット	末松 郁子
鶴 和美	薮田 敏生	上原菜々子	原 敏郎	永廣 正治	□チェレスタ
□1stヴァイオリン	□ヴィオラ	□フルート	□ファゴット	堀江 幸司	砂泊 宇希
尾上 香織	山崎 崇伸	高濱龍一郎	宮瀬真由美	□トロンボーン	□ハーブ
田中 唱	辰野 陽子	丸山 栄理	高橋 業華	梅田 雄介	野田 千晶
江成 淳美	桂 敦子	寺尾みのり	川邊由香梨	濱崎 美幸	□ピアノ
椎 小百合	甲田 啓子	□オーボエ	□ホルン	安永 沙織	浜川 潮
佐藤 弘美	池辺 京子	小島 拓朗	光永 邦保	□チューバ	□オンド・マルトノ
黒木奈津美	荒木 拓実	辰野 裕昭	良井 優太	府高 隆	原田 節
豊永 僑子	□チェロ	片岡 久哉	古瀬 恵莉	□打楽器	
鳥居 俊彦	佛淵 信夫	□クラリネット	中村枝里香	木野 聖子	
荒瀬 麻里	内賀嶋直美	黒木 健次	東 愛華	杉田 博美	
□2ndヴァイオリン	金子 岳史				
岩橋 和江	長坂 輝喜				
猪本 耀子	長尾 和治				
原 雅子	野島 秀司				
藤井 咲子	□コントラバス				
中尾麻美子	桑原 寿哉				
稲田 香織	岡 浩之				



芸文祭オーケストラは、熊本交響楽団、熊本ユースシンフォニーオーケストラ、平成音楽大学等により編成されています。

芸文祭合唱団

□ソプラノ

工藤 百華
青木 萌乃
古庄 加奈
松村美沙紀
今村菜奈美
村口 茉莉
田尻 萌華
小山 董
金戸 地塩
上妻 優輝
本田さくら
宮嵯 みゆ
大川 源
東 樹音
横山 百合
長井 優光
吉田 小町
高崎 杏実
田尻 源
水島 有理
田辺 天梨
吉岡 怜央
後藤 聖河
大川 虹
松本 悠里
宮嵯 優
淀川 真央
益田胡桃美
釣田林太郎
石村湖々乃
今村真里那
立石 鈴奈
大石めぐみ
尾方 友
関村友梨香
松本 美桜
入江 捺月
北村 広子
本松 岬
木村 沙織
天津真砂子
亀山 美紀
樺 輝子
城 弘子

塚本 幸子
山本明貴子
柿野 邦子
川部 恵子
串山 教子
北原 咲子
畠山志津子
林田 稔子
松原久美子
宮崎千賀子
豊永 正子
今村 仁美
坂口佳乃子
福原 杏
小山田光希
和田 純佳
金子 桃和
野口 琴美
小山田早希
田川 華
西山 咲貴
谷村 咲希
増岡智加子
岩崎 嘉子
植田 智子
迫口 眞美
菊川 博子

□メゾ・ソプラノ

齋藤 真歩
井手美由子
松下 佳那
黒木陽菜子
宮崎 遥
吉田 早織
茨木 里実
渡邊 琴未
秋吉 楓
樹田 恵利
米村 沙織
今田 結稀
松本 美紀
緒方 ゆい
武藤 桜華
吉松 美佳

福島 彩
西村 優沙
馬場 千晴
宮本 光夏
橋本 幸枝
永野 智子
山本 直子
瀬口 敬代
船津 栄子
船津 光子

□アルト

西田幸里海
松元 世菜
長船まどか
生田 龍進
宇野 旭
飯西 優希
荒木 文珠
柴田 有真
木下 真礼
吉本 史織
國米 真優
平井宥利子
赤星 瑠奈
上田望加里
中村 綾華
壇 千智
吉川 加那
宮本 夕貴
吉田明日香

黒田 真美
清 直子
安藤 久子
大宮 佳子
坂本 裕子
荘野 玲子
福島 由布
弥富 睦子
稲岡 福子
福山 蘭子
田村 直子
光岡ちえか
早川あゆみ
黒木 美穂
吉武 町子
江藤 綾子
村井 智子
生田 麻結
福原 大喜
森 英介
山内 愛香
古閑侑里花
青木 知子
日車 祐子
森 美樹子
椿 千寿子
上村 美紀

□テノール

宮本 亨
松崎 弘伸

亀井 克明
水口 正洋
石井 勝
塩永 一寛
下林 豊
塚本 哲
日高 啓輔
深水 博元
井上 正彦
江島 正彬
江原 道義
柴田 康二
関 栄
鷹野 哲治
田尻 英雄
千葉 昌秋
前田 徹
吉原 道彦
柘植 治人
松尾 眞
板井 陽平
岩下 真也
高道 悠太
松尾 岳

□バリトン

安藤 敬久
岩村 徹
加島 康正
菊川 英臣
松下 承生

松本津紀雄
宮本 孝男

□バス

入江晃士朗
鈴木 拓弥
小山 司
泉 博
小郷慎太郎
釘宮 涼介
青柳 正晴
赤塚 恒幸
有江 俊隆
岡本秀一郎
長野 清孝
中村 一紀
永山 格
西井 利嗣
松尾 興和
山下 勉
反後 英治
窪田 隆穂
平井 和彦
那須 信明
最所 一
愛路 隆要
小笹 真雄

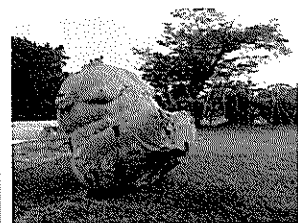
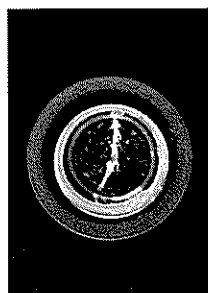


芸文祭合唱団は、デメテル男声合唱団、熊本混声合唱団、熊本市民合唱団ユージェント・コール、合唱団 Le Grazie、コーロ・フィオーレ、熊本フィルハーモニアシンガーズ、熊本大学合唱団、熊本少年少女合唱団、NHK熊本児童合唱団により編成されています。

舞台美術監修について

崇城大学芸術学部 漆原 一宣 (芸術学部長)
 勝野 眞言 (美術学科教授)
 森野 晶人 (デザイン学科教授)
 甲野 善一郎 (デザイン学科技術員)
 森田 一成 (大学院生)
 中本 有城 (大学院生)

彫刻と映像を組み合わせることで、「音」によって表現された「水」に空間と時間という要素のイメージを掛け合わせました。映像は、抽象的な「水のイメージ」、様々な「水の様相」、「水と自然の関わり」などをテーマに編集しています。また、その映像の前でシンボリックに配置された3点の彫刻作品『Seed』(森田一成・制作)は、大地の生命力と人の生きる姿を掛け合わせた立体造形として表現しています。「水」によって潤った大地から植物は芽を出します。その時の生命力の力強さ。自然界の生命力と女性が子供を生む生命力のつながりがコンセプトです。



スタッフ

第53回熊本県芸術文化祭

■企画委員会

大江 捷也* 熊本県文化協会 常任顧問
 小川 芳宏 熊本県文化協会 専務理事
 井芹 道一 熊本日日新聞社 文化生活部長
 小原 茂 NHK 熊本放送局 放送部長
 村上 輝和 熊本放送 常務取締役
 土谷 千明 テレビ熊本 常務取締役
 戸井 良之 熊本県民テレビ 報道局長
 松島 健司 熊本朝日放送株式会社 営業局次長
 牛島 悦博 エフエム熊本 企画担当部長
 小田 信也 熊本県教育庁文化課 課長
 富永 正純 熊本県文化企画課 課長

■監事

古田 信雄 熊本県文化協会 事務局次長
 宗村 士郎 熊本県文化企画課 審議員

■制作

制作統括：大江 捷也 (熊本県文化協会)
 制作統括補佐：小川 芳宏 (熊本県文化協会)
 本田 恵介 (熊本県立劇場)
 進行・構成統括：色川 伸 (ペアーズ・ワン)
 事務局：佐藤 正夫 (熊本県文化協会) 宮家 郁子 (熊本県立劇場)
 宗村 士郎 (熊本県文化企画課) 嶺 浩子 (熊本県立劇場)
 平川 明人 (熊本県文化企画課) 加藤 千恵 (熊本県立劇場)
 藤井 堅一 (熊本県文化企画課) 土井亜希子 (熊本県立劇場)
 黒木 賢治 (熊本県立劇場)

■企画委員会小委員会

大江 捷也* 熊本県文化協会 常任顧問
 小川 芳宏 熊本県文化協会 専務理事
 山崎 崇伸 熊本交響楽団 団員代表
 藏岡多可士 熊本音楽連盟 顧問
 岩津 整明 熊本県合唱連盟 理事長
 古川 郁代 熊本箏演奏者協会 代表
 田島 涼子 田島お琴・尺八研究所 代表
 鋸 光道 熊本県邦楽協会 会長
 光永浩一郎 作曲家
 色川 伸 ペアーズワン 代表
 漆原 一宣 崇城大学芸術学部長
 中村 賢次 崇城大学芸術学部 美術学科長
 村上 哲 熊本県立美術館主幹 (学芸員)
 富永 正純 熊本県文化企画課 課長
 本田 恵介 熊本県立劇場 事務局次長兼企画事業課長

*...委員長

芸術文化祭オープニングステージ関連事業

邦楽～心を結ぶ絃と絃

9月30日(金)

熊本県庁新館ロビー 12:20～12:50 (入場無料)

熊本県立劇場和室 19:00～20:00 (入場無料)

【出演】

佐藤亜美(箏・二十五絃箏)

第17回くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞受賞

【プログラム】

伊福部 昭/琵琶行 - 白居易ノ興ニ效フ

野坂 恵子/津軽

廣瀬量平/「瓊」- 箏独奏のための十段

(くまもと邦楽コンクール最優秀賞受賞曲) ほか



ミュージアム・コンサート「印象派とフランス音楽の宴」

10月1日(土) 14:00～15:00

熊本県立美術館 本館・吹抜けホール (入場無料)

【出演】

那須 亜紀子(ヴァイオリン)

早川 満幸(フルート)

鳥羽瀬 宗一郎(ピアノ)



【プログラム】

～ヴァイオリン～

ミヨー/春 作品18

ドビュッシー/ヴァイオリンとピアノの為のソナタより第一楽章

ラヴェル/ハバネラの様式による小品

～フルート～

ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲

～ピアノ～

シャブリエ/アルバムの一葉

イベール/「物語」より 黄金色の亀を曳く女
石清水を売る女

～トリオ～

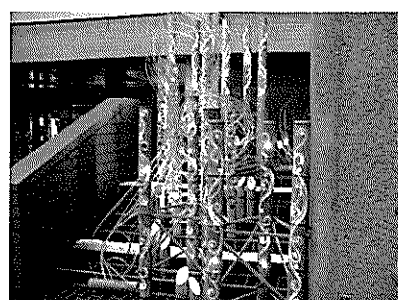
フィリップ・ゴーベル/古代のメダル

イベール/アリア

第8回熊本暮らし人祭り「みずあかり」協賛

10月8(土)、9(日)に熊本城周辺で実施されるみずあかり事業に協賛します。

また、劇場プロムナードに竹灯りを設置、第53回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ふるさと水清く…」公演に合わせて展示します。



木野聖子 打楽器・マリンバコンサート ～心に響く打楽器の音色～

10月8日(土) 開場 18:00 開演 18:30
御船町カルチャーセンター

【出演】

木野聖子 (打楽器・マリンバ)
宮崎 仁 (打楽器)
志娥 慶香 (ピアノ伴奏)

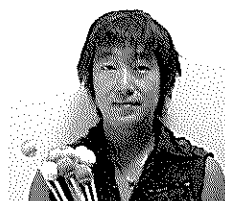


【入場料】

一般 1,000円
高校生以下 無料 (全席自由)

【プログラム】

モーテンセン/ソロ小太鼓の為の
マーチ・カデンツァ
山田耕筰/この道
志娥慶香/みずのうた
三木 稔/マリンバ・スピリチュアル ほか



【主催】

御船町、御船町教育委員会、(財)熊本県立劇場

音楽の森コンサート ～音楽の父バッハは、優しいお父さん?!～

10月21日(金) 18:30開場 19:00開演
熊本市植木文化センター 植木町文化ホール

【出演】

音楽の森
春日 保人 (バリトン、バロックフルート)
丹沢 広樹 (バロック・ヴァイオリン)
春日万里子 (チェンバロ)



【プログラム】

ペルゴレージ/喜劇《奥様女中》編 一人音楽劇『女中に惚れさせられてしまったご主人様』
バッハ/シャコンヌ
バッハ/ブランデンブルグ協奏曲第5番より 第2楽章
バッハ作曲・グノー編曲/アヴェ・マリア ほか

【入場料】

一般 1,000円
小学生以下、70歳以上無料 (要整理券/植木文化センターにて配布) (全席自由)

【主催】

植木町文化ホール自主文化事業協会、植木町合併特例区、(財)熊本県立劇場



熊本県立劇場

(財)熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市大江2丁目7-1

tel.096-363-2233

<http://www.kengeki.or.jp>

■主催／熊本県芸術文化祭企画委員会、熊本県文化協会、熊本県、(財)熊本県立劇場 ■後援／熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会、熊本県文化懇話会、熊本県文化協会協力会、熊本県高等学校文化連盟、熊本日日新聞社、NHK熊本放送局、RKK、TKU、KKT、FMK、KAB、FM791 ■協賛／(財)九州文化協会 ■協力／崇城大学芸術学部、熊本県立美術館、みずあかり実行委員会、静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ ■助成／(財)熊本放送文化振興財団